

令和4年度 第5回 東金市地域公共交通会議 議事録

1. 日 時 令和5年2月20日(木) 10時00分～10時30分

2. 開催場所 東金市保健福祉センター(ふれあいセンター)2階 栄養指導室

3. 出席者 出席23名、代理1名、欠席4名、事務局5名

出席：丸委員、藤崎委員、仲田委員、小川委員、真行寺委員、三須委員、吉井委員、
小見川委員、座古委員、白石委員、佐瀬委員、子安委員、佐竹委員、
土屋委員、高橋委員、荒田委員※、椎名委員※、藤井委員、神山委員(市民福祉部長)、
鈴木委員(経済環境部長)、安川委員(都市建設部長)、長尾委員(教育部長)

代理：渡邊委員(青木氏)

欠席：宮沢委員、石井委員、村川委員、飯田委員

※：新規委員

事務局：醍醐企画政策部長、中田地域振興課長、矢野地域振興課主幹、山崎公共交通係長
伊藤主事、石田主事

4. 会議次第

1 開 会 【進行：矢野主幹】

・会議成立の報告

委員の過半数の出席(28名中23名出席)であり、東金市地域公共交通会議設置要綱
第7条第3項の規定により、会議が成立していることの報告

2 安川会長あいさつ

3 新任委員及び事務局紹介・・・委員名簿

4 議 事 【議長 安川会長】

・議事案件 (1)山崎係長より説明

(1) 第3次東金市地域公共交通計画(成案)について【審議】 資料1、資料2

5. その他

6. 閉 会

【概要及び今後の課題】

■ 議事

- (1) 第3次東金市地域公共交通計画（成案）について（資料1）
承認

○ 第3次東金市地域公共交通計画（成案）について

（事務局）

【資料1、2にて説明】（承認）

〈質疑なし〉

○ その他

（事務局）

公共交通の専門家である藤井先生より、本市の取組みを進める上での姿勢や課題、他市先進事例などをご紹介頂ければと存じますがいかがか。

（委員）

あくまで「地域公共交通計画」は、5年間の短期的な取組みの中で方向性を示すこと。さらに「実施計画」にて具体的な提案として、何を実施するかを盛り込んでいくことが趣旨になっている。

東金市が将来、目指す姿を見据えながら、困っているところをどう取り組んでいくのかを丁寧に挙げていかななくてはならない。そういった中で、パブリックコメントの指摘にもあった「モビリティ・マネジメント」や、前々から東金市の課題とされていた乗合タクシーについて、計画の中に具体的に対応していくことが盛り込まれたことは非常に良いことだと考える。

公共交通を使う意識を上げるというのも「モビリティ・マネジメント」の取組みだが、昨今の状況を見ていると、交通事業者の置かれている環境として、コロナ禍を受け、また、地方になればなるほど高齢化が進み、維持が難しい状況がある。2024年に向け、労務基準の改正があり、管理も厳しくなる。実際、現状のダイヤでは運行の維持が厳しいと宣言しているところも出てきている。

現実的な話として、バスの本数を増やすことは、実態として難しい状況にある。「使いたいところにバスがないので使えない」という意見がある一方で、「そこを運行したからといって使われるとは限らない」というのが公共交通の難しさである。

そういった中で、「地域の方が利用しなければ公共交通の維持は難しい」ということを市民に理解いただくとともに、実際に公共交通事業者が置かれている状況の厳しさを知っていただくこと、この両面が要になってくると思う。

「モビリティ・マネジメント」では、「公共交通を使いましょう」というスタンスに加え、「この危機的な状況で公共交通をどう使って支えていくかを市民が考えていかなければならない」というメッセージを盛り込んでいく配慮が必要となる。

特に富津市などの内房では、ドライバーの確保を公共交通会議の取組みとして位置づけた例がある。行政側がそういった支援をしなければ維持できないという状況があがってきている。

もう一点、東金市の公共交通計画を考えた時、広域的な枠組みとして、近隣市町と連携した公共交通計画を策定し、上位計画に位置付けている例がある。伊豆半島も房総半島と同様の状況がみられる。やはり南側に来るほど、生活交通としての利用者数の維持が難しく、観光に寄ってくるという状況がある中で、静岡県では、伊豆半島を3地域に分け、地域ごとに上位計画を策定する形で連携する仕組みを作っている。そういったことが東金市でもできないかということも公共交通会議でもご発言させていただいたことがある。具体的な県の方向性はないにしても、東金市であれば九十九里町と協力し、地域一体のネットワークとして公共交通を考えることも一つの手段になりえる。九十九里町は現在、計画を策定しようとしている段階だが、次期計画では、広域型の連携の仕組みをお互いに擦り合わせていければ、周辺エリアの交通が使いやすいものになるかと思う。富津市については、君津市の議員が公共交通会議のメンバーに入っており、お互いの計画づくりを相互に連携するという仕組みを構築している。

今後、役割分担、あるいは協力できる関係性が出来るか、次の計画の中でご検討いただければと思う。

やはり東金市の中で一番気になっているのが乗合タクシーである。色々な自治体で、エリア全体で乗合タクシーを運行する取組みが増えているが、既存の公共交通との差別化といったところは課題になっている。東金市でも民間路線バス、コミュニティバスが走っている中で、乗合タクシーを全域で運行していることから、乗合タクシーをどう差別化するかということが重要になる。コミュニティバスが1運行1時間半かかるという記載があるが、時間短縮を図って競合する運用を考える場合、バス事業とのバッティングが起きる危惧もある。国交省でも「共創」というキーワードを出しているが、それぞれの役割分担、バランスが崩れてしまうと良くない。運行時間の長さを効率性の問題と捉えるのかといったところは議論が必要であると考えます。

乗合タクシーの具体的な運用方法についてだが、他市事例でいうと、早期予約に対し割引を設定、ただしキャンセルをするとキャンセル料金が生じるという運用をしているところがある。また、予約可能な期間を制限する、あるいは1回の電話で予約できる回数に上限を設けているところもある。旭市・草加市では予約は4回までという制限をかけている。

直前キャンセルが発生するとなると、運転手は待機せざるを得ず、効率的な運行の妨げになることから、他自治体では、電話でのオペレーションをオンデマンドシステムに切り替えるところもある。初期費用はかかるが、当初200万円を超えるシステムが、70~80万円程度で利用できるようになってきている。経験値による手動の配車管理をシステムに切り替え、乗合効率化も図るということをしており、実際にそれがシステムとして機能するかが、今、検証されている。

東金市においても、「当日キャンセル」というキーワードについて、性善説に立つのか、

あるいはオペレーターが予約をしない仕組みに切り替えていくのかといった検討をしなければならないと考える。ただ、公共交通というところで、どのあたりまで制限をかけるのかという議論はあるかと思う。

77ページに「新たな移動手段の検討」というキーワードが出てきている。パブリックコメントでもあったが、移動させる仕組みと移動しなくて済む仕組みを両面で考えていかなければいけない。例えば、「まちづくりと一体とするのか」、「コミュニティづくりをするのか」、あるいは「健康づくりのために外出支援をするのか」といった観点がある。女性の方は地域との関わりが比較的多いが、男性の独居老人は地域との関わりが持ちづらいという状況もある。そういった中で、移動スーパーのようなものがコミュニティづくりや健康管理に役立っている例もある。

東金市においても、外出をする楽しみを活かせるような公共交通の仕組みを考えていかなければならない。あるいは、「生活支援を図るところは地域の取組みで済ませるのか」、「定時定路線が本当に必要なのか」といったところも全体の中で検討する必要がある。最後に私自身も車で生活しているが、運転する人の年齢も上がってきている。本来、警察としては75歳で免許返納を推奨しているが、手放せない状況もあり、悲惨な事故も起きている。バリアフリーの側面でいうと、免許を手放すのは難しく、また今まで自家用車を使っていた人ほど返納してライフスタイルを転換するというのもハードルが高い。「免許返納者などの移動を公共交通でどのように支えていくのか」についても考えなくてはならない。免許返納の年齢について、他市で5年間の推移をみたところ、75歳に返納予定だった人が80歳に返納予定と先延ばしにしており、80歳の方はあと1~2年で返納予定といった意見がでてきている。公共交通の利用は80代後半の元気な方、小中学生など移動の足を持っていない人が担い手となる。こういった年齢層のどんな方が担い手になり、どのくらいの人数がいらっしゃるのかを把握する必要があり、もし福祉交通に寄った方が良いのであれば、会議の中でそういった議論があってもよいと考える。

今回の計画が策定され、ここからどのように結果を描いていくかという中では、公共交通が無くなったなら市民の生活がどう変わるのかという視点で、最終的には上位計画の総合計画に立ちかえり、公共交通会議からのボトムアップ型で計画立案を進めることも検討して良いかと考える。

SDGsの中で公共交通に関連する項目は11と2になる。日本では高齢者がどうしても利用者の中心にはなるが、世界的には女性、子ども、高齢者、障がい者という順で記載があり、女性、子どもが世界で見た時の移動弱者として最初に挙げられている。2030年までの目標の中でそれをどう達成するのかというところがある。東金市では女性はみな車を持っている状況かもしれないが、子どもたちの移動をどう考えるのか、あるいは、地域の総動員といったところで、子どもたちや子育て世代などをどのような形でフォローアップするか、具体的な取組みが必要かと思う。短期的な施策やビジネスモデルにはならない可能性もあるが、世界的な目標に向けて、動いていただきたいと思う。